

【洲本市】 1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

目指す児童生徒像は、自律した学習者の育成である。そのため、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に保証・充実させることにより、主体的・対話的で深い学びの授業改善がなされ、育成すべき三つの資質・能力が育成される。この中で本市では学びに向かう力の育成に最も注力したい。

それにはその基盤となる、抜本的な情報活用能力の育成が肝要であり、本市では情報活用能力育成のために年間10時間程度、特化した時間を確保する。

2. GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想1年目から、本市の端末の活用頻度は県平均、全国平均と比較してもかなり高い。本市のデータから授業改善、働き方改革を実感できている教職員は、1日1回以上、活用していることが判明した。ちなみに最も実感しているのはほぼ毎時間活用しているという教職員である。

第2期はその高い活用頻度を保ちつつ授業DX、校務DX、家庭学習DX、教育DXに取り組み、その推進を通してWell-beingの実現を目指し、リーディングDXスクール事業に取り組む。その一方で、活用頻度が高いため、ネットワーク不調や端末の劣化が顕在化している部分の改善も行う。

3. 1人1台端末の利活用方策

目指す学びの姿を実現するには1人1台端末の利活用を含めた、デジタル学習基盤を十分に活用することが必要不可欠である。そのため、以下のような方策を行う。

(1) 目指す児童・生徒像の共有

校長会や教頭会、各種研修会をなどあらゆる機会を通して、全教職員に目指す児童・生徒像を共有していく。

(2) GIGA第1期の課題解決

ネットワークの不安定が最優先すべき課題である。そのため、本市ではアセスメント調査に基づき、整備してしていく。

(3) 研修体制の充実

教育センター研修、管理職研修、訪問研修を通じて、教職員のスキルの向上を図る。

(4) リーディングDXスクール事業への取組

今年度も全ての学校が指定校、協力校となり、市内全体の学校で取り組んでいく。